

第5期

事業報告

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

株式会社 島原観光ビューロー

第5期 事業報告

(自 令和 2 年 4 月 1 日 至 令和 3 年 3 月 31 日)

1. 株式会社の現状に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

2020 年度の観光業界は、4～5 月第 1 波、7～8 月第 2 波、12～1 月第 3 波と、コロナ感染症により甚大な影響を受けた 1 年でした。このような状況下当社は、前期株総の事業報告で記載した、社に甚大に影響を与えかねない緊急 3 課題～この解決に向け組織一丸となり取り組んできました。

緊急課題(1)	このコロナ環境が続けば、 <u>2020 年度期末に債務超過に陥りかねない危惧がある</u>
緊急課題(2)	ここ 1～2 年の間で、 <u>既存の観光モデルが通じなくなるような、大きな変化が起こりうる</u>
緊急課題(3)	変化する市場に対し、 <u>現体制でいいのか、早期に多角度から徹底議論が必要である</u>

まずは準備していた 3 カ年計画を棚上げとし、代わりに緊急 3 課題に特化した単年度計画を策定、ポイントは～異なる時間軸の 3 課題を、この 1 年間を期限に同時進行させ、3 課題に対し～回避・解消する／シフトさせる／方向を固める～ という結果を出すという計画でした。

方面 1・時間軸 1	2020 年度「債務超過の回避戦」	⇒ 債務超過を回避・解消する為の計画
方面 2・時間軸 2	2021 年度「中高・遠長モデルへの転換戦」	⇒ 新モデルへシフトさせる為の計画
方面 3・時間軸 3	2022 年度「組織・目的のあり方戦」	⇒ 市場変化に対し方向を固める為の計画

以上を進めた結果、売上高 は 253,956 千円(前期比 108.3%)、総利益は 221,315 千円(前期比 118.1%)、販管費は 208,313 千円(前期比 111.9%)となり、営業利益は 13,002 千円(前期 11,770 千円増)、経常利益は 13,075 千円(前期 11,843 千円増)、当期純利益は 12,856 千円(前期 11,806 千円増)となりました。コロナ禍にもかかわらず、2 期連続の黒字を確保することができました。

全国の運輸・観光系企業が赤字となる中、社が黒字化できたのは、35 日連続休業という仮死状態時に、起死回生に向け急ピッチで計画練り上げ、再開と同時に、本業に拘ることなく、ありとあらゆる案件を、できる・できないはこの次に、一丸となり取り込んできた～その結果だと考えています。

しかし一方では、今回の黒字は助成金やコロナ対策事業の獲得が大きな割合を占めており、今後の助成金や事業の漸減を考えれば、今から即、自らの身を削ぐような改革に着手しない限り、これからの優勝劣敗・淘汰時代を生き残ることはできないと考えられます。

そこで、「2021-2022 構造改革 2 カ年計画 ～after コロナ下での生き残りをかけて～」を策定、自らを生き残れる体質へ改造する～という計画をたて、現在進めているところです。

2021 年度から「優勝劣敗・淘汰時代」に突入します。これからの 2 年間で、収入・原価・経費の 3 つの構造改革を必ず成し遂げ、after コロナ下でも生き残れる収支構造を手に入れたいと思います。

(2) 資金調達等についての状況

設立時 2,005 株(払込金額 1 株につき 20,000 円)を発行し、資本金 40,100,000 円でスタートしました。その後、2016 年 11 月に増資を行い、995 株(〃)を追加発行して、資本金 60,000,000 円となり現在に至っております。

(3) 財産及び損益状況の推移

	第2期	第3期	第4期	第5期	前期増減
	(平成 29 年度)	(平成 30 年度)	(令和元年度)	(令和2年度)	
売上高	209,181 千円	220,728 千円	234,571 千円	253,956 千円	19,385 千円
売上総利益	178,581 千円	185,371 千円	187,452 千円	221,315 千円	33,863 千円
販管費	194,785 千円	195,492 千円	186,220 千円	208,313 千円	22,093 千円
営業利益	▲16,204 千円	▲10,121 千円	1,232 千円	13,002 千円	11,770 千円
経常利益	▲15,738 千円	▲9,332 千円	1,233 千円	13,075 千円	11,843 千円
当期純利益	▲15,920 千円	▲9,515 千円	1,050 千円	12,856 千円	11,806 千円
1株当り純利益	▲5,307 円	▲3,172 円	350 円	4,285 円	3,935 円
総資産	67,383 千円	68,154 千円	64,160 千円	80,153 千円	15,993 千円
純資産	46,800 千円	37,286 千円	38,336 千円	51,191 千円	12,856 千円

(4) 主要な営業所及び従業員の状況

名称	所在地
(株)島原観光ビューロー 島原城本部	〒855-0036 島原市城内1丁目 1183-1
(株)島原観光ビューロー 外港事務所	〒855-0861 島原市下川尻町 7-5

令和3年3月31日現在

	総合企画支援部	DMO 推進室	誘致営業推進部	商品企画販売部	合計	前期末増減
社員	2 (2)	1 (1)	4 (3)	5 (3)	12 (9)	1
契約ほか	3 (0)	(0)	2 (1)	20(20)	25 (21)	▲2
合計	5 (2)	1 (1)	6 (4)	25(23)	37 (30)	▲1

注1: ()内は女性 注2: 役員除く

(5) 対処すべき課題

①2020年度に掲げた「対処すべき課題」の結果について

(ア) コロナ影響対応の単年度計画を策定し実行する。

まず 2021 年度の「指定管理料ゼロ化」と「3 か年中計 stage2」のスタートを先送りとしたうえで、課題解決に向けた単年度計画 ～「コロナ対応 3 方面・3 時間軸 同時戦」～を以下の手順で策定、期限を切って答え・結果を出すべく取組みました。

【手順1 ～まずは、近未来の市場を予測し仮説を立てました】

- 仮説(1) 市場は決して 100%には戻らない、観光客の ▲30%減が常態化した市場になる
- 仮説(2) 観光客 ▲30%減の常態化により、無為無策だと総利益の ▲3,500 万が消滅する
- 仮説(3) 増収と経費減をしても 2,000 万が限度、現状 ▲1,500 万のカバー策が見当たらない
- 仮説(4) 2021 年度から、国(県市)でも制御できない、優勝劣敗・淘汰時代に入ります

【手順2 ～この4つの仮説下において、当社に起こりうる リスクを洗い出しました】

- リスク(1) 現在のコロナ環境が続けば、社は 2020 年度期末において債務超過に陥りかねない
- リスク(2) ここ 1～2 年の間に、既存観光モデルが通用しなくなるような、大きな変化が起こりうる
- リスク(3) 従って、現体制でいいのか、早期に徹底した議論をしないと淘汰の波に飲み込まれる

【手順3 ～そのリスクに対し、個別の単年度対応計画を策定し、且つ実行しました】

- 債務超過 リスク ⇒ 計画1「方面1・時間軸1 2020 年度 債務超過の回避戦」
- モデル崩壊リスク ⇒ 計画2「方面2・時間軸2 2021 年度 中高・遠長モデルへの転換戦」
- 淘汰時代 リスク ⇒ 計画3「方面3・時間軸3 2022 年度 組織・目的のあり方戦」

その結果、「債務超過リスク」に対しては、2 期連続の黒字で回避するとともに、累損も 1285 万減らしました。「モデル崩壊リスク」に対しては、MR や VR ツアーなど中高価格帯の新品目を造成する等、滞在時間の延長に繋がる商品・仕組み作り着手しています。「淘汰時代リスク」に対しては、淘汰時代における社の組織体(株式型や一社型等)はどうあるべきか、その目指すべきものは～等、コロナ下における組織の進むべき方向を、新たに議論し固めなおしました。

(イ) 2020年度で終了する委託2事業の今後について

2020 年度で終了する「島原城七万石物語事業(雇用 5 名)」、「湧水城下町おもてなし事業(雇用 3 名)」の後継事業を確保すべく、市とともに進めてきました。その結果、以下のように後継事業を確保でき、引き続き雇用を守ることができました。

- ①島原城七万石物語事業 →2021 年度～2025 年度 「島原城築城 400 年武将隊PR事業」
* 国の委託事業として 5 年間獲得
- ②湧水城下町おもてなし事業 →2021 年度～2023 年度 「鯉の泳ぐまち魅力アップ事業」
* 県の委託事業として 3 年間獲得

②2021年度中に対処すべき課題について

(ア)「構造改革2カ年計画」～うち、2021年度目標である1600万の利益改革を成し遂げる
with・after コロナ下の市場・経営環境を想定のうち、70%の収益下でも生き残れる企業体質になるべく～「構造改革2カ年計画」を策定、その2021年度目標額の達成を目指します。

課題①「収入構造改革」を成し遂げます

目標：原価構造改革と合わせ、2021年度中に増収1,000万を成し遂げます。

■観光事業■ ～「安近短モデルから中高・遠長モデルへの転換」

- ◇既存商品の磨き直しによる単価アップを進めます。(価格納得性をもったうえで)
- ◇新たな中・高価格帯の新商品を造成します。
- ◇絶対インフラの再構築(バリアフリーの環境整備)により、新たな需要を掘り起こします。
- ◇受地インフラの再構築(第4の2次交通網構築)により、時間と消費の増を目指します。

■物販事業■ ～「脱！土産品店、マルチタスク Shop への加速」

- ◇土産品販売スペースの半減化(土産品を大量購入するような時代は二度とこない)
→ABC分析導入により、論理的な商品選別(死に筋商品の選別)を実施します。
→PPM分析導入により(負け犬/問題児など)、論理的な売れる棚割りを実施します。
→NET強化～ふる納低額返礼品の取扱いを拡大します(販売チャネルのNETシフト)
- ◇カテゴリー取得観光案内所の新設…4カ所目の物販併設の観光案内所を作ります。
→バリアフリー商品の販売スペースの確保と、新VRツアー商品の造成をします。

■新規事業■ ～「21まちで新規事業ヘトライ」

- ◇第4の2次交通網「乗捨て可能なめぐチャリ事業」を立上げます。(新設案内所内)
- ◇湧水館第1ステージ～「古民家喫茶事業」ヘトライします。

課題②「原価構造改革」を成し遂げます

目標：収入構造改革と合わせ、2021年度中に増収1,000万を成し遂げます。

■観光事業■ ～「損益分岐点(BEP)管理の徹底」

- ◇めぐりんチケット BEP3,000冊化を実現します。
- ◇企画商品毎の損益把握と改善を継続します。

■物販事業■ ～「ABC分析が全ての基本」

- ◇ABC分析・PPM分析に基づき、ORCも含めた原価交渉を実施します。
*分析・交渉結果を元にして、商品の選別と売れる棚割り・販促を行います。
- ◇継続してPB(プライベートブランド)を開発します。(自ら原価率低減に取り組みます)

課題③「経費構造改革」を成し遂げます

目標：2021年度に経費減 ▲600万を成し遂げます。

- ・光熱水費の見直し・・・第二電電へ
- ・管理委託費の見直し・・・入退場自動改札の検討／警備保障会社との契約検討～等

(6)剰余金の配当等を、取締役会が決定する旨の定款の定めがあるときの権限の行使に関する方針

当社は、株主に対する利益還元を経営上の重要な施策の一つとして位置付けております。

当社は、将来における安定的な成長と、環境の急激な変化にも対応できるよう、必要な内部留保を先に確保し、その上で経営成績に応じ、株主への利益還元を継続的に行う～ことを基本とします。

2. 株式に関する事項

- ①発行可能株式数 3,000株
- ②発行済株式の総数 3,000株
- ③当事業年度末の株主数 223名
- ④大株主(発行済株式総数の10分の1以上)

令和3年3月31日現在

株主名	持株数
島原市	2,000株

3. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等

令和3年3月31日現在

地位及び担当	氏名	他の法人等の代表状況
代表取締役	中村 慎次	
取締役	古川 隆三郎	島原市長
取締役	満井 敏隆	島原商工会議所 会頭
取締役	小川 洋	(株)長崎経済研究所 代表取締役社長
監査役	八幡 秀昭	

- 注1 取締役古川隆三郎氏、満井敏隆氏、小川洋氏は会社法第2条15号に定める社外取締役ではありますが、その中でも小川洋氏は独立役員となります。
- 注2 監査役八幡秀昭氏は、会社法第2条16号に定める社外監査役ではありますが、その中でも独立役員となります。
- 注3 監査役八幡秀昭氏は、公認会計士・税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

(2) 取締役及び監査役の報酬等の総額

	人員	報酬等の額
取締役	4人	8,600,000円
監査役	1人	600,000円
計	5人	9,200,000円

- 注1 報酬等の額は令和2年4月1日～令和3年3月31日までの合計額です。
- 注2 古川取締役と満井取締役は、その社会的立場から無報酬としています。
- 注3 第1回取締役会にて、小川取締役・八幡監査役より、今期報酬の返上申し出がありました。最終的に、決算状況を踏まえ50%の返上を受入れました。

(3) 社外独立役員の実任者への出席及び発言状況

取締役	小川 洋	令和2年6月15日第5期・第1回取締役会、6月29日第2回取締役会、8月25日第3回取締役会、11月13日第4回取締役会、令和3年2月24日第5回取締役会に出席し、議案・審議等につき必要な発言を適宜行っております。
監査役	八幡 秀昭	令和2年6月15日第5期・第1回取締役会、6月29日第2回取締役会、8月25日第3回取締役会、11月13日第4回取締役会、令和3年2月24日第5回取締役会に出席し、主に公認会計士としての専門的見地から、議案・審議等につき必要な発言を適宜行っております。

決 算 報 告 書

(第 5 期)

自 令和 2年 4 月 1 日
至 令和 3年 3 月 31 日

株式会社島原観光ビューロー

長崎県島原市下川尻町 7 番地 5

比較 貸借対照表

株式会社島原観光ビューロー

【資産の部】

単位：円

科 目	当 期	前 期	差 額	前 期 対 比
【流動資産】	【 58,984,027 】	【 41,815,390 】	【 17,168,637 】	141.1
1 現 金	2,292,255	1,951,483	340,772	117.5
2 預 金	40,812,543	32,119,499	8,693,044	127.1
3 売 掛 金	3,674,111	918,472	2,755,639	400.0
4 商 品	911,647	1,212,819	▲301,172	75.2
5 貯 蔵 品	532,116	1,229,754	▲697,638	43.3
6 仮 払 金	22,000	0	22,000	
7 前 払 費 用	16,000	20,000	▲4,000	80.0
8 未 収 入 金	10,723,355	4,363,363	6,359,992	245.8
【固定資産】	【 21,169,153 】	【 22,344,372 】	【 ▲1,175,219 】	94.7
9 (有形固定資産)	(12,706,234)	(20,570,180)	(▲7,863,946)	61.8
10 建 物	1,069,500	1,207,500	▲138,000	88.6
11 建物附属設備	612,893	701,646	▲88,753	87.4
12 構 築 物	1,609,110	1,829,646	▲220,536	87.9
13 車 両 運 搬 具	2	2	0	100.0
14 工 具 器 具 備 品	9,414,729	16,831,386	▲7,416,657	55.9
15 (無形固定資産)	(7,462,919)	(774,192)	(6,688,727)	964.0
16 商 標 権	35,092	48,432	▲13,340	72.5
17 ソフトウェア	7,427,827	725,760	6,702,067	1023.5
18 (投資他の資産)	(1,000,000)	(1,000,000)	(0)	100.0
19 差 入 保 証 金	1,000,000	1,000,000	0	100.0
資 産 合 計	80,153,180	64,159,762	15,993,418	124.9

【ポイント】

5期目にして再び資産合計が80,000千円を超えました。

(参考) 2016年度/80,006千円 →2017年度/67,383千円 →2018年度/68,154千円 →2019年度/64,160千円

1. 2 現金と預金 前期より 9,034千円増加 … 2018年度 29,212千円 →2019年度 34,071千円 →2020年度 43,105千円
3. 売掛金 前期より 2,756千円増加 … 「島原美人美容マスク」1,824千円の新規売掛金やキャッシュレス(1,037千円)の利用者増加によります。
8. 未収入金 前期より 6,360千円増加 … 雇調金と消費税還付 2,079千円、県プロモーション 2,000千円、プレミアム乗車券 2,949千円など、新たな需要獲得に伴い増加しました。
(参考)2017年度 15,948千円 →2018年度 12,082千円 →2019年度 4,363千円
14. 工具器具備品 前期より ▲7,417千円減少 … 資産の利用稼働率を元に諸法令で認められる範囲で一括償却を実施、財務体質の強化を進めました。一方で、MRホロレンズ4,222千円を計上(償却後3,462千円)しました。
17. ソフトウェア 前期より 6,702千円増加 … MRソフト2件11,000千円を資産計上したことによります。(償却後 6,967千円)

比較 損益計算書

株式会社島原観光ビューロー

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日

単位：円

	科 目	当 期	前 期	差 額	前期 対比
1	【 売 上 高 】	【 253,955,596 】	【 234,570,819 】	【 19,384,777 】	108.3
2	本部事業収益	32,349,613	23,607,971	8,741,642	137.0
3	島原城事業収益	38,699,874	77,009,512	▲38,309,638	50.3
4	本丸売店事業収益	34,923,912	58,732,482	▲23,808,570	59.5
5	観光振興事業収益	17,325,540	19,667,553	▲2,342,013	88.1
6	DMO推進事業収益	5,930,532	4,488,600	1,441,932	132.1
7	湧水館事業収益	132,546	115,712	16,834	114.5
8	四明荘事業収益	4,357,850	8,226,850	▲3,869,000	53.0
9	清流亭事業収益	10,386,054	14,708,961	▲4,322,907	70.6
10	七万石物語事業収益	15,235,165	16,582,185	▲1,347,020	91.9
11	湧水おもてなし事業収益	9,370,300	10,144,833	▲774,533	92.4
12	コロナ対策事業収益	85,239,460	0	85,239,460	
13	旅行業事業収益	4,750	1,286,160	▲1,281,410	0.4
14	【 売 上 原 価 】	【 32,641,044 】	【 47,119,191 】	【 ▲14,478,147 】	69.3
15	期首棚卸高	1,212,819	1,330,412	▲117,593	91.2
16	売店仕入	22,327,984	36,128,482	▲13,800,498	61.8
17	清流亭仕入	7,149,748	10,076,956	▲2,927,208	71.0
18	委託仕入	53,541	257,175	▲203,634	20.8
19	DMO仕入	1,457,703	0	1,457,703	
20	湧水館仕入	112,220	90,182	22,038	124.4
21	観光振興仕入	295,294	448,803	▲153,509	65.8
22	本部仕入	943,382		943,382	
23	期末棚卸高	▲911,647	▲1,212,819	301,172	75.2
24	売 上 総 利 益	221,314,552	187,451,628	33,862,924	118.1
25	【 販売費及び一般管理費 】	【 208,312,940 】	【 186,219,544 】	【 22,093,396 】	111.9
26	営 業 利 益	13,001,612	1,232,084	11,769,528	1055.3
27	【 営 業 外 収 益 】	【 77,945 】	【 459 】	【 77,486 】	16981.5
28	受取利息	418	423	▲5	98.8
29	雑収入	77,527	36	77,491	215352.8
30	【 営 業 外 費 用 】	【 4,325 】	【 0 】	【 4,325 】	
31	経 常 利 益	13,075,232	1,232,543	11,842,689	1060.8
32	税引前当期純利益	13,075,232	1,232,543	11,842,689	1060.8
33	法人税等	219,600	182,500	37,100	120.3
34	当 期 純 利 益	12,855,632	1,050,043	11,805,589	1224.3

比較 販売費及び一般管理費

株式会社島原観光ビューロー

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日

単位：円

	科 目	当 期	前 期	差 額	前 期 対 比
1	役 員 報 酬	9,200,000	10,400,000	▲1,200,000	88.5
2	給 与 手 当	28,782,541	25,607,563	3,174,978	112.4
3	賃 金	42,688,029	46,358,366	▲3,670,337	92.1
4	賞 与	3,377,550	4,502,500	▲1,124,950	75.0
5	賞与引当金繰入額	2,262,000	0	2,262,000	
6	法 定 福 利 費	11,667,154	11,742,292	▲75,138	99.4
7	福 利 厚 生 費	405,606	531,069	▲125,463	76.4
8	旅 費 交 通 費	1,061,300	1,405,979	▲344,679	75.5
9	通 信 費	1,490,351	1,831,329	▲340,978	81.4
10	交 際 費	149,374	326,270	▲176,896	45.8
11	会 議 費	57,850	40,500	17,350	142.8
12	減 価 償 却 費	16,397,019	4,031,093	12,365,926	406.8
13	地 代 家 賃	300,000	300,000	0	100.0
14	リ ー ス 料	1,146,144	1,141,374	4,770	100.4
15	保 険 料	851,683	1,029,526	▲177,843	82.7
16	修 繕 費	971,396	857,786	113,610	113.2
17	水 道 光 熱 費	8,983,956	10,348,608	▲1,364,652	86.8
18	燃 料 費	225,277	289,528	▲64,251	77.8
19	消 耗 品 費	5,744,266	4,324,926	1,419,340	132.8
20	租 税 公 課	131,764	55,214	76,550	238.6
21	事 務 用 品 費	312,444	403,671	▲91,227	77.4
22	広 告 宣 伝 費	2,099,405	2,433,640	▲334,235	86.3
23	支 払 手 数 料	712,853	949,676	▲236,823	75.1
24	諸 会 費	538,000	534,375	3,625	100.7
25	新 聞 図 書 費	52,632	52,632	0	100.0
26	開 発 費	2,030,584	0	2,030,584	
27	観 光 事 業 費	1,993,260	3,356,623	▲1,363,363	59.4
28	自 主 事 業 費	33,980	476,900	▲442,920	7.1
29	剪 定 防 除 費	1,982,700	2,298,480	▲315,780	86.3
30	業 務 委 託 費	19,891,317	20,790,370	▲899,053	95.7
31	管 理 委 託 費	14,897,145	15,815,491	▲918,346	94.2
32	負 担 金	548,974	642,000	▲93,026	85.5
33	消 費 税	4,431,200	7,108,000	▲2,676,800	62.3
34	印 刷 製 本 費	2,533,160	4,798,836	▲2,265,676	52.8
35	諸 謝 金	50,952	44,000	6,952	115.8
36	コ口ナ特別経費	19,289,059	0	19,289,059	
37	雑 費	1,022,015	1,390,927	▲368,912	73.5
	合 計	208,312,940	186,219,544	22,093,396	111.9

株主資本等変動計算書

株式会社島原観光ビューロー

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日

単位：円

株主資本

資本金	当期首残高及び当期末残高	60,000,000
-----	--------------	------------

利益剰余金		
-------	--	--

その他利益剰余金		
----------	--	--

繰越利益剰余金	当期首残高	▲21,664,402
---------	-------	-------------

当期変動額	当期純利益	12,855,632
-------	-------	------------

当期末残高		▲8,808,770
-------	--	------------

利益剰余金合計	当期首残高	▲21,664,402
---------	-------	-------------

	当期変動額	12,855,632
--	-------	------------

	当期末残高	▲8,808,770
--	-------	------------

株主資本合計	当期首残高	38,335,598
--------	-------	------------

	当期変動額	12,855,632
--	-------	------------

	当期末残高	51,191,230
--	-------	------------

純資産合計	当期首残高	38,335,598
-------	-------	------------

	当期変動額	12,855,632
--	-------	------------

	当期末残高	51,191,230
--	-------	------------

個別注記表

株式会社島原観光ビューロー

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日

この計算書類は、中小企業の会計に関する指針によって作成しています。

重要な会計方針に係る事項に関する注記

棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法を採用しております。

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式を採用しております。

会計方針の変更に関する注記

会計方針の変更

該当なし

表示方法の変更に関する注記

表示方法の変更

該当なし

貸借対照表等に関する注記

その他

有形固定資産の減価償却累計額

当 期

28,675,292円

前 期

11,652,465円

株主資本等変動計算書に関する注記

発行済み株式の数

前期末株式数（発行済普通株式）

当期増加株式数（発行済普通株式）

当期減少株式数（発行済普通株式）

当期末株式数（発行済普通株式）

前期末株式数（発行済優先株式）

当期増加株式数（発行済優先株式）

当期減少株式数（発行済優先株式）

当期末株式数（発行済優先株式）

当 期

3,000株

3,000株

前 期

3,000株

3,000株

監査報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日までの、第5期事業年度の取締役の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査役は、取締役及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を開覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査致しました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関係する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表)及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一、事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく表示しているものと認めます。
- 二、取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は、会社の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

令和 3年 6月 7日

株式会社 島原観光ビューロー

監査役

八幡秀昭 